

ていねいな暮らしのあつたころ

佐野二彦の撮った伊深の里山



「大豆を干す」 昭和38年10月22日撮影

「豆を干す」

農家では、たくさんの種類の豆を育て、収穫しました。ほとんどの豆は、サヤから出して乾燥し保存しました。

右の写真は、家の門先かどまへにムシロを敷いて、サヤのままの大豆が干してある様子です。トオシトオシでふるい、サヤと豆をより分けているところです。右



「秋」 昭和37年11月6日撮影

のムシロには、より分けた後の空あきのサヤが積んであるようです。作業をしている人の後ろには、ミとムシロが積んであります。

門先の作業場は農家特有のもので、さまざまな農作業や物を置く場所として使われました。南向きで陽の光もよく当たりました。

左の写真は、大豆類が門先に干してある様子です。トオシとミが見えます。里芋の茎であるダツダツ（ズイキとも言う）も干してあります。